

WEEKLY REPORT

No. 1665 (第 25 回) 2024 年 2 月 28 日(水) 点鐘: 12 時 45 分 オンライン例会

例会: 毎週水曜日 12:45~ 例会場: 勇屋会館 事務所: 安曇野市豊科 4312-6 奥村ビル2F

RI テーマ

TEL: 0263(73)2901 FAX: 0263(72)3181 E-mail: azumirc@poppy.ocn.ne.jp

会長 小穴 実 幹事 藤森 康友

R.I 会長 ゴードン R. マッキナリー ガバナー補佐 場々 洋介



世界に希望を生み出そう

クラブ標語【クラブに希望を生み出そう】

《平和構築と紛争予防月間》



★ 配布・幹事報告号 No.25

★ ゲストのご紹介

・七尾みなとロータリークラブ 会長 田中哲様

★ 会長挨拶

【小穴会長】

皆さんこんにちは! 過ごしやすいい冬から一転立春を過ぎたあたりから雪が降ったりと普段の2月よりも寒い日が多くなっていますがお元気でしょうか?



さて、本日はこの後、七尾みなとロータリークラブ田中会長にご登場願ひ七尾

みなとの現状をお伺いすることとなっております。復旧活動にお忙しいことと存じ上げますので、10分ほどとお願いしてございます。尻切れトンボになってしまうかもしれませんが、ご理解のほど宜しくお願いいたします。

来月3月に入りますと13日に信州友愛ロータリークラブとの夜間例会が有ります。当クラブは夜間例会と位置づけしていますが、友愛さんはビジター訪問格でのご出席と伺っております。例会扱いにするとメンバーのテリトリーが広く県下はもちろん日本各地、世界各国(ちと大げさかな)から参加義務が生じてしまうとのことでビジター参加ということになりました。高木会長・笠原幹事・古川パストガバナー・金見地区会員増強委員長等、はじめ多彩な顔ぶれとなりますのでよろしく宜しくお願いいたします。

他に大雪で順延となっております創立夜間例会のお祝いに駆けつけて頂く予定でした松本南ロータリークラブの野本会長。大池幹事もご出席いただく事となっております。こちららも併せて宜しくお願いいたします。

会場は改装オープンとなった白板のおおたき総本店となります。

さて、白鳥ガバナーエレクトも国際会議が終わり、本格的に次年度の準備段階に入ってきました。来月3月23日にはPETSがあり、4月7日には地区研修協議会が有ります。担当の方はご準備宜しくお願いいたします。それでは本日もよろしく宜しくお願いいたします。

★ 幹事報告

【藤森幹事】

別紙参照



◇出席報告

会員総数 19 名 出席免除会員数 1 名	
本日の出席率	前々回 (2/7 修正出席率)
出席者: 7 名	欠席者: 6 名
欠席者: 11 名	メーキャップ: 2 名
出席率: 39%	出席率: 79%



七尾みなとロータリークラブ会長ご挨拶

【田中哲様】

こんにちは!

小穴会長をはじめとするあづみ野 RC 会員皆様、この度は石川県能登半島沖地震に多大なるご支援、御心強いお言葉、お見舞いを頂き心より感謝致します。



ありがとうございました。

本来ならば長野県安曇野の地へ出向き、皆様に御礼を申し上げなければならないのにこの様な形で皆様とお会い出来る場を設けて下さいましたあづみ野 RC に大変嬉しく思います。

七尾みなと RC を代表しまして感謝申し上げます、ありがとうございます。

震災よりやがて 2 ヶ月あまりが過ぎようとしています。今でも震度 1、2 を記録する余震が続いて心が落ち着かない日々を過ごしております。

何が起きたのか分からないくらいの大地震が何故 1 月 1 日、元旦の日に!

何故、自分が会長の時に!と思ったのは自分だけでしょうか、震度 7 に合わせて大津波警報、我を忘れて逃げ惑う市民に冷静になれる人はそう少なくなかったと思います。一瞬にして能登の姿、型や人命まで奪った大地震、輪島では火災に加え津波で家屋や大事な家族まで失うといった、悲惨な目に遭われた方も少なくありません。

我がクラブでも店舗、家屋が倒壊するといった被災者もいます。明るく振る舞ってはいますが内情はとても心苦しい気持ちでいっぱいだと思います。

そんな中で勇気を付けて下さいました友好クラブのあづみ野さん・瀬戸北さん・全国のロータークラブさんによる、励ましの言葉や支援により、今では、政府による再建支援補助金等により、復興を目指し、前を向いている企業やロータリーの会員さんがいます。

断水が長引く地域もありますが、1 日も早く復興を目指し、いつの日かまた友好クラブの皆様をこの七尾でお迎え出来る日を願い頑張ってお参りますので、暖かい目で見守って頂けると幸いです。

この震災で改めてロータリアンの絆が深まった気がします。

どうぞ皆様も次は我が身という災害意識を強く持って、くれぐれもお身体に十分ご自愛、ご家族皆様方のご健勝をお願いしてオンラインでのご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

★本日のプログラム

○会員卓話

私の趣味

【中村会員】

今回の卓話は私の趣味についてお話しさせていただきます。「ゴルフ」は皆さんご存じの通りですが、ゴルフの歴史は平成元年豊科 CC の開場と同じです。ベストスコアは 79 ですが今は 100 タタキです。平成 7 年 11 月 26 日にあづみ野 CC4 番ホールでホールインワンをしました。



あと夏場は「畑」の農作業があります、畑をやることになったきっかけは、壮年ソフト(昨年退会しました)の監督から、一方的に「チュウ畑やれ」といわれたのがきっかけです。体育会系の人で有無を言わせずというところがあり初めての経験で大変でした。当時は家で食べる夏野菜が主でしたが、結構な量になるため、会社でお昼の味噌汁を作ることにしました。また、非農家の社員が喜んで野菜を持ち帰るのが楽しみにもなり、キュウリ等少々多めに作ってもあつというまに消費されてメーカーの担当営業にもあげたりしております。

もう 1 つの趣味は「チェーンソー=伐木」です。伐木は、実益をかねております、今年は薪ストーブ以外他の暖房は一切使ってません。きっかけは煙突を見て薪ストーブの会のリーダーが勧誘に来てくれました。この会は「不要木を無償で伐木します、そのかわり伐木した木をいただきます。」という趣旨で会には約 20 年の歴史があり、会員は約 20 名ほどおります。今日も平日チーム 5 名で梓川の伐木作業をしています。期間は、11 月～翌年の 4 月まで(水を吸い上げない時期)が活動期間です、伐木、玉切り、積み込みとかなり疲れますが、チェーンソーはストレス解消に最高です。皆様のところやご友人に不要木がありましたらご紹介いただければありがたいです、よろしく願います。

そしてもう 1 つ趣味が「探鳥」です、信州野鳥の会に入っております。写真をご覧ください



我が家の薪ストーブ



伐木作業



伐木作業風景

アオゲラ



留鳥
代表的なキツツキの仲間
鳴き声：キョッキョツ
繁殖期：ビョービョービョー
左の♂は頭に赤い帽子をかぶっている。

アカツクシガモ



アカモズ

アカツクシガモ



冬鳥
日本ではまれに飛来する。



モズとの違いは鳴き声
アカモズは濁った声で「ギチギチギチ」と鳴く。

アトリ

冬鳥
スズメくらいのサイズ、秋にシベリアから渡来する
この辺で見られる個体数は年によって大きく変化します。四賀村に渡りの前に集まるねぐらがあります。



シメ

留鳥
スズメよりひとまわり大きく、平地から山地の広葉樹林や雑木林に生息。

イカル



ムクドリくらいの大きさ

日本では北海道、本州、四国、九州の山林で繁殖するが北日本の個体は冬季は本州以南の暖地へ移動する。木の実を好んで食べる。イカルコキーと鳴くところからイカルという名前がついたという説もあります。

コガラ

留鳥
シジュウカラ、ヒガラ、コガラは3種ともシジュウカラ科の野鳥で外形がとてもよく似ており、観察頻度も比較的高いため、似ている野鳥の代表格の野鳥です。

ミヤマホウジロ

冬鳥
ホウジロよりひとまわり小さい。雌雄ともに頭頂の冠羽が伸びているの目の周りの黄色が特徴。繁殖期には黒と黄色のコントラストがキレイです。

イスカ



冬鳥
ムクドリくらいの大きさ。くちばしが上下で交差しているのが特徴。群れて行動することが多い。

イソヒヨドリ



磯や岩場に多く生息し、外見がヒヨドリに似ていることからこの和名がついている。静岡県伊東市、三重県伊勢市において市の鳥に指定されている。この辺では平島市の方で観察できます。

ウグイス



赤っぽい方が♂
グレーが♀

ウグイスとオオルリ



「ホーホケキョ」と大きな声でさえずる。日本三鳴鳥の一つ。山梨県と福岡県の県鳥であり、日本の多数の市町村などの自治体指定の鳥である。

日本三鳴鳥
ウグイス
オオルリ
コマドリ

夏鳥
日本へは夏鳥として渡来・繁殖し、冬季は東南アジアで越冬する。高い木の上で朗らかにさえずる。姿も囁りも美しい。牧のアルプス公園周辺の川沿いで観察できます。

イワヒバリ



留鳥
冬季には南下したり、標高の低い場所へ移動する。日本では北海道と本州中部以北に亜種イワヒバリが周年生息する。

亜種
すでに種として分類されているものと似ていながらも、微妙に異なる特徴を持ったものを、種の下の階層である亜種として分類します。地域的に差異がある動物に多く用いられます。



ウミネコ



留鳥
やまびこドーム北側の
田んぼにて。
冬季になると北海道や
本州北部で繁殖する個
体群は南下する個体が
多い。
この辺で見られるのは
めずらしい。

ウミネコ等々力町



ウミネコ 明科



エゾビタキ

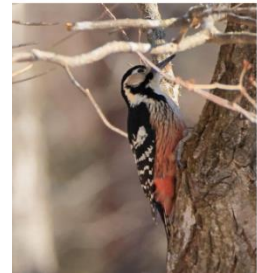


春と秋の渡りの時期
に飛来する。
どちらかという秋
の方が通過数が多い。
スズメよりも少し小
さい。
ヒタキの目はかわい
い。

エゾビタキと紅葉



オオアカゲラ



留鳥
大型のキツツキ
ドラミングはアカ
ゲラよりも大きい。

シジュウカラとエナガ



シジュウカラ
スズメくらいの大き
さ。
オスは喉から下尾
筒(したびと)に
かけての黒い縦
線(ネクタイ)が
メスと比較してよ
り太い。

エナガ
全長は約14 cm左
記体長には長い尾
羽を含め、尾羽
を含めない身体
はスズメと比べ
るとずいぶん小
さいが、羽が柔
らかく膨らみ、
尾が長いので、
実際よりやや
大きく見える。
黒いくちばしは
小さく丸い体に
長い尾羽がついた
小鳥。

オオジュリン♀



スズメくらいのサイズ
夏季はユーラシア大陸の中から
高緯度地域で繁殖し、冬季はア
フリカ大陸北部やユーラシア大
陸南部へ南下し越冬する。
日本では夏季に北海道と東北地
方で繁殖し、冬季に本州以南に
南下し越冬する。
近畿がついていて、 標識調査対
象の鳥であることがわかる。

オオタカ



♂の全長は約50cm
♀の全長は約60cm
トビよりも一回り小さい、
カラスと同程度、尾は長い。
日本における鷹類の代表的
な種である。古今、タカと
いえば、オオタカを指すこ
とが多い。

豊科白鳥湖にて

オオルリ



日本へは夏鳥として渡
来・繁殖し、冬季は東南
アジアで越冬する。高
木の上で明るみにさ
えずる。姿も囀りも美
しい。

オシドリ



日本では北海道や本州中部以北
で繁殖し、冬季になると本州以
南(主に西日本)へ南下し越冬
する。オシドリは一般的に渡鳥
であるが、冬鳥のように冬期に
国外から渡って来ることある。
イギリスなどへ移入・定着。ま
たアメリカや中東にも移入生息
が確認されている。

上高地周辺の水辺でよく見られ
る、松本城のおほりにもたびた
び飛来しています。

オオヨシキリ



夏鳥
 婚姻様式は一夫多妻。
 繁殖期には縄張りを形成し、高所で囀り縄張りを主張する。
 縄張りを形成したオスの20-30%は2-3羽のメスとペアを形成するが、約15%のオスは縄張りを形成できないこともある。ヨシなどの茎や枯れ葉などを組み合わせたお椀状の巣を作り、3-5個の卵を産む。メスのみが抱卵し、抱卵期間は13日。育雛期間は14日。オスは縄張り内で最も繁殖の進んだ巣にのみ、給餌を行う。
 場所により、うるさいくらいにさえずっている。Gフレンドリー

オナガ



留鳥

地域に分かれて分布する留鳥
 日本では分布を狭めており、1970年代までは本州全土および九州の一部で観察されたが、1980年代以降日本で繁殖は確認されておらず、留鳥として姿を見ることはなくなった。現在は本州の福井県以東、神奈川県以北で観察されるのみとなっている。わずか10年足らずで西日本の個体群が姿を消した原因はまったくわかっていない。ただし、九州の個体群については近年になって分布を拡大し続けているカササギとの競争に敗れたという説がある。このように分布域を狭めてはいるが、東日本に残された群の個体数は減少どころか増加の傾向にある。

オシドリ♂♀

カモではめずらしく木の枝にとまることもある。
 オシドリが樹洞に巣を作ることは昔から知られており、孵化した雛がどうやって地表に降りるのかは長い間謎であった。しかし後に、雛は自分で巣から地面に飛び降りることが、皇居の森にて確認されている。



カイツブリ



留鳥
 日本では、本州中部以南では留鳥として周年生息するが、北部や山地のものは冬に渡去することから、北海道や本州北部では夏季に飛来する夏鳥となる。

オナガガモ白化個体



ガビチョウ



特定外来生物

体長約22~25cm
 中国南部から東南アジア北部にかけて広く生息する。
 日本では、ペットとして輸入された個体がかご脱けにより定着した。日本国内では留鳥として生息し、南東北、関東、中部、九州北部で見られる。本種が多く観察されるポイントとして、東京都内では高尾山が有名。
 アルプス公園でも繁殖している。



カワセミ



海岸や川、湖、池などの水辺に生息し、公園の池など都市部にもあらわれる。古くは町中でも普通に見られた鳥だったが、高度経済成長期には、生活排水や工場排水で多くの川が汚れたために、都心や町中では見られなくなった。近年、水質改善が進んだ川では、東京都心部でも再び見られるようになってきている。

松本城のお堀りにいます。

カンムリカイツブリ



日本では、冬季に九州以北に冬鳥として飛来するが、青森県の下北半島や滋賀県の琵琶湖など本州の湖沼でも少数繁殖する。琵琶湖では2007年に越冬する個体数1,176が確認されている。イギリスでは19世紀、帽子の羽根飾り等にするため大量に捕獲され、激減したことがある

キレンジャク



全長約19.5cm。体はおもに赤みのある灰褐色で、頭部には冠羽がある。尾羽が黄色。尾羽が赤色、ヒレンジャク

クサシギ



ユーラシア大陸北部で広く繁殖し、冬季はアフリカ、中東、インド、中国南部、東南アジアへの渡りをおこない越冬する。

日本では、旅鳥として春と秋の渡りの時期に全国的に渡来するが、関東地方より南部では冬鳥として越冬する。

コアジサシ



全長は24 cm、ツグミやヒヨドリと同じくらいの大きさ。翼開長は約53 cm。翼と尾羽がツバメのように細く広がっていて、嘴もまっすぐのびる。海岸や川などの水辺に生息し、狙いをつけて水にダイビングして魚をとらえる。日本では本州以南に夏鳥として渡ってきて繁殖するが、繁殖地となる場所の減少に伴い数が減っている。

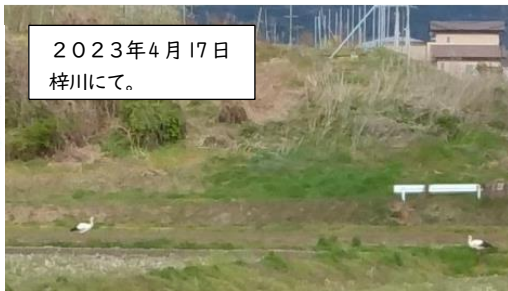
残念ながらこの辺では見られません。

コゲラ



全長約15 cmで、スズメと同じくらいの大きさ。翼開長は約27 cm。日本に生息するキツツキとしては最も小さい。

2023年4月17日
梓川にて。



タゲリ ケリ



日本には冬季に越冬のため本州に飛来し（冬鳥）、中部地方や関東地方北部で繁殖した記録もある。例年豊科南穂高の田んぼにいます。

モンゴル高原、中国北東部、日本列島で繁殖する。冬には東南アジア、中国南部などに渡る個体も見られる。しかし、日本列島においては留鳥として、生活する個体も見られる。

コイカル



日本では、旅鳥または冬鳥として本州の中部以南に渡来する。

コウノトリ

ササゴイ



夏鳥
全長40-50cm

日本では夏季に本州、四国、九州に飛来、冬季になると九州以南で越冬（冬鳥もしくは留鳥）する。

下 コシアカツバメ 上 ツバメ



夏季にヨーロッパ南部、中央アジア、ウズリーなどで繁殖し、冬季になると東南アジアやインド、中華人民共和国南部へ南下し越冬する。

日本では夏季に繁殖のため九州以北（主に本州中部以西）に飛来する（夏鳥）。日本国内の繁殖地は北へ拡大傾向にある。四国や九州で越冬する個体もある。

この辺で見れるのはまれ。



大きさはシジュウカラ>コガラ>ヒガラの順になります。名前からコガラが一番小さいと勘違いしがちですが、一番小さいのはヒガラです。ただ、シジュウカラが少し大きいか程度でヒガラとコガラの大きさにほとんど差はありません。隣に並んでくれない限りヒガラとコガラを大きさの違いで判断するのはむずかしい。美ヶ原に登っていく途中でよく見れます。留鳥

コガラ エナガ シジュウカラ

コマドリ



全長13.5-14.5cm
頭から胸にかけて入っている美しいオレンジ色の体が特徴のコマドリは、夏に日本に渡ってくる渡り鳥の一種です。「ヒンカラカラ」とさえずる綺麗な鳴き声は日本の三鳴鳥の一種にも数えられています。

コムクドリ



夏鳥
ムクドリの種類の1つ。全長約19cmムクドリは約24cm。オスは頭から胸にかけて、淡いクリーム色をしています。また頬から耳あたりまでに赤茶色の斑点があり、背中や肩、翼の根本部分は黒い色をしています。翼の先や尻尾は光沢のある紫掛った黒。それからお腹から下の部分はくすんだ感じのクリーム色をしています。一方メスは、頭から胸にかけて灰褐色をしていて、頬の斑点はありません。

サシバ



中国北部、朝鮮半島、日本本土で繁殖し、秋には南西諸島を経由して東南アジアやニューギニアで冬を越す。一部は南西諸島で冬を越す。本土では4月ごろ夏鳥として本州、四国、九州に渡来し、標高1,000m以下の山地の林で繁殖する。
全長は、雄はおよ47cmで雌はおよ51cm。
翼開長105cm-115cm。

奈川と乗鞍間の白樺峠のタカ見の広場は全国的にも有名。
信州野鳥の会のメンバーがタカの渡りのスポットとして発見した。

サンショウクイ



夏季に日本、ロシア東部、朝鮮半島で繁殖し、冬季は東南アジアへ南下し越冬する。本種はサンショウクイ科でも最も北に分布し、唯一長距離の渡りを行う。日本では夏季に繁殖のため本州以南に飛来(夏鳥)する。体長約20cm。背面が灰色、腹面が白い羽毛で覆われる。翼は黒いが、風切羽の基部は白い。
シャリシャリと鈴を鳴らしたような鳴き声特徴的。
例年アルプス公園でも繁殖している。

ジョウビタキ

冬鳥



日本では主に冬鳥として全国に渡来するが近年、国内での繁殖が拡大している。

乗鞍高原では留鳥となって繁殖しているのが信州野鳥の会で確認されている。

車のドアミラーに自分が写るのを敵だと思って攻撃する姿はよく見かける。

シマアジ



ユーラシア大陸北部から中部で繁殖し、冬季になるとアフリカ大陸、東南アジア、インド、パプアニューギニアなどへ南下し越冬する。
日本では渡りの途中で飛来し(旅鳥)、北海道で少数が繁殖し八重山列島で少数が越冬する。
明科にて。

セイタカシギ 三郷



日本では旅鳥または留鳥。かつて迷鳥としてまれに記録される程度であった。1975年に愛知県の千拓地で初めて日本国内での繁殖が確認された。埋立地が増えた1978年以降に、東京湾、伊勢湾、三河湾周辺でも繁殖が確認され留鳥として定住するようになった。現在は各地で生息が確認されており、東京湾付近の千葉県習志野市の谷津干潟などでは周年観察されている。2007年に葛西臨海公園野鳥園で3例の繁殖が確認されている。2009年6月に沖永良良島で1例の繁殖が確認されている。
三郷で見れたのはめずらしい。

センダイムシクイ



夏鳥

中華人民共和国北東部・日本・ロシア南東部・朝鮮半島で繁殖し、冬季になるとマレー半島・ジャワ島・スマトラ島などの東南アジアで越冬する。
日本には繁殖のため九州以北に飛来する。
チヨチヨビーというさえずりが特徴的。

チュウサギ



日本では夏季に本州や九州に飛来する(夏鳥)。

全長約63-72cm。全身は白い。ダイサギより一回り小さい。

豊科重柳で見れたのはめずらしい。

ツバメ 2023年12月3日 明科

本来12月にはいないはずのツバメだが、越冬ツバメがいることは信州野鳥の会で確認されている。



ツミ

夏季に中華人民共和国東部や日本、朝鮮半島で繁殖し、冬季は中華人民共和国南部や東南アジアに南下して越冬する。
日本では温暖な地域では周年生息(留鳥)するが、寒冷地では冬季に南下(夏鳥)することもある。
ハトよりも少し大きなサイズ。

トラツグミ



留鳥
体長は30cmほどでヒヨドリ並みの大きさ。頭部から腰までや翼などの体表は、黄褐色で黒い鱗状の斑が密にある。体の下面は白っぽい。嘴は黒く、脚は肉色である。雌雄同色である。
食性は雑食。雑木林などの地面上で、積もる落ち葉などをかき分けながら歩き、土中のミミズや昆虫類などを捕食する時のダンスが特徴的。
アルプス公園にいます。

ノスリ



全長50-60cm。
オスよりもメスの方が大型になる。背面は褐色、腹面は淡褐色の羽毛に覆われる。喉の羽毛は黒い。
バット見トビとよく似ているが羽の裏側や腹が白っぽい。
またトビより丸みがあり若干小さい。

ノビタキ



夏鳥
本州中部以北に渡来し繁殖する。本州中部以南では春秋の渡りの時期に見られる。八重山諸島では少数が越冬している。
形態
体長約13cm。成鳥雄の夏羽は、頭部や喉、背中、翼、尾が黒く、頭の両側と腹部は白い。胸は橙色で腰は白く、翼に白斑がある。成鳥雌の夏羽は、上面が黄褐色で下面は淡い橙黄色、腹部はやや白みがかった。腰は淡い橙色で、翼に白斑がある雄よりも小さい。冬羽では雌雄とも全身が橙黄色がかったが、雄の頭部や喉は黒褐色である。

バン 上♂ 下幼鳥



体長は35 cmほどで、ハトくらい大きさ。
成鳥のからだは黒い羽毛におおわれるが、背中のはいくらか緑色をおびる。額にはくちばしが延長したような「額板」があり、繁殖期には額板とくちばしの根もとが赤くなる。足と足指は黄色くて長く、幼鳥はからだの羽毛がうすい褐色で、額板も小さい。

ヒレンジャク



体長は約18cm、オスとメスはほぼ同色で、全体的に赤紫がかった淡褐色であるが、頭や羽などに特徴的な部位が多い。顔はやや赤褐色みを帯び、尖った冠羽、冠羽の縁まで至る黒い過眼線、黒いのだ（メスは、黒斑の下端の境界が曖昧である）などである。

ブッポウソウ並柳で死後硬直



全長約30cm。
雌雄同色で、頭部は黒褐色、尾羽は黒色。のどは群青色で、胴体は光沢のある青色の羽毛に覆われ、この羽毛は光の加減により緑色に見えることもある。初列尾切りに白い斑紋があり、翼を広げる時、飛翔している時には目立つ。嘴と脚は赤橙色

ホウアカ



全長15-16.5cm。側頭部に赤褐色の斑紋があるのが和名の由来。腹面は白く、体側面には褐色の縦縞が入り、メスは少々、色が薄い。
オスの夏羽は頭部が灰色になり、胸部に黒と赤褐色の横帯が1対ずつ入る。

ベニマシコ



全長約15 cm、翼開長約21 cm。ほぼスズメと同等。嘴は丸みを帯びて短く、肌色をしている。
雄は全体的に紅赤色を帯び、目先の色は濃い。夏羽は赤みが強くなる。頬から喉、額の上から後頭部にかけて白い。また、背羽に黒褐色の斑があり、縦縞に見える。

ホシハジロ



マガン ハシビロガモ



マガン



ミサゴ



ムナグロ



ヤブサメ



ライチョウ 立山



ライチョウ 燕岳



ルリビタキ

